

韓国の一般的な登山道の様子



登山口

国立公園管理公団の事務所が主な登山口にある。2002 年は入場料金を払い台帳に氏名・住所・登山予定などを記入した。



登山道の立入制限

「自然休息年制区間 立入禁止」
自然復元のために、年単位で登山道を閉鎖する。

この看板は登山道の分岐にたてられていた。



時間制限・人数制限によって閉鎖された登山道。他に季節（春・秋）、気象条件、入山時刻指定により、登山道の立ち入りが制限されることがある。



よく整備された登山道。
日本人にとっては過剰にも思えるほど。
反対に韓国人は日本でも「一般登山道は誰もが歩けるように整備されている」という意識があると思われる。
250m～500m間隔で現在地の分かる標識が立てられており、遭難時にはその標識の番号と状況を伝えれば救助隊が出動する。
写真は2002年。現在はさらに整備が進んでいる。



← この写真のみ
山岳雑誌から転載

管理公団の山小屋はネットでの完全予約制。
チェックイン時間は午後4時から午後7時まで。
食事・寝具の提供はない。売店・毛布の貸し出しあり。



韓国第2の高峰チリサンの5月。
ツツジが満開で稜線上は暑く、同時期の3000mとのギャップが大きい。

